
ストロンゲスト

七海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ストロングゲスト

【Nコード】

N6938Y

【作者名】

七海

【あらすじ】

主人公、中願寺刀馬は、毎日平凡に過ごしていた。

ある日、友人の東誠と学校から下校していると、不良に絡まれた。その不良たちは、メチャクチャ強いと有名なRipperだった。

プロローグ

本性を隠しなさい。

昔から父さんに言われてきた言葉。

俺、中願寺刀馬　ちゅうがんじ　とうま　は、変わった名前であるため、学校では結構有名だ。

見た目は幼く、高校一年生とは思えない容姿をしている。

それがコンプレックスだ。

だが、そのおかげか友達が多く、知り合いも多い。

長所は、元気なところ。

短所は、マイナス思考。

身長156?。

まあ、身長が低いところ以外は普通かな?

「お〜い!刀馬!」

「ん?」

誰かが後ろから手を振りながら近づいてきた。

親友の東誠　あずま　まこと　だ。

「おいてくなよ〜。。。」

「ごめんごめん。」

いつも一緒に帰っているが、今日はボーっとしていて忘れていた。

「今日も、学校終わったな〜!」

「うん!明日も学校あるけどね。。。」

「刀馬。今、言っていることと悪いことっていつのがあるのだよ。」

誠は、刀馬の頭をグリグリ手で押している。

「ごめん!。。。ごめんつてえ!」

そんな風にじゃれ合っていると、刀馬が一人の男とぶつかった。

「あ。。。!すみま。。。」

刀馬がその男に謝ろうとすると、急に男が刀馬にけりを入れてきた。刀馬はそれをとっさによけた。

男は、いかにも不良!!!と言っ顔をしている。

刀馬は、さすがにヤバイと思っ、謝る。

「すみませんでした」

「す、すみませんでした」

なぜか、誠も謝っている。

だが、許してくれるわけがない。

「俺さあ、今誰かをぶん殴りてえ気分なんだよね」

刀馬と誠は、『何?このアニメみたいな展開……』という顔をしている。

誠は、精一杯の笑顔を作り

「そうなんですか。では!」

誠は刀馬の腕をつかんで逃げようとする。

だが、後ろにはもう一人、その男の仲間だと思われる集団がいた。

「逃がさねえよ!!!」

男は刀馬に殴りかかる。

刀馬は、それを腕でかわす。

そして、刀馬はその男を蹴り飛ばした。

「うぐう……!!!」

男は何ともいえない言葉を発し、10mほど離れた木に突撃する。

「すげえな!!!刀馬!!!」

「まあね……。でも、誠もスゲエじゃん!喧嘩、強いんだろ?」

「それほどでも」

二人は、周りにいる不良のことを忘れているのか、どうなのか分からないが、盛り上がっている。

それをみて、不良は全員で二人に殴りかかる。

「Ripper リッパー をなめんなよ……!!!!!!!!!!!!」

「弱かったな。あいつら」

誠は、頭の後ろで手を組みながら落ちていた空き缶を蹴飛ばした。刀馬はその空き缶を拾ってゴミ箱にすてると、

「でも、Ripperってメチャクチャ強い不良グループだろ？ だぶん、下っ端の下っ端だよ。」

「そだな。ってか、クラスの奴らに見られてたらまずいな。」

「・・・うん。だぶん、軽蔑されるね。」

プロローグ（後書き）

えっと、セイサイレンとは、かけ離れた感じの作品ですが、楽しんでいただけたら幸いです^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6938y/>

ストロンゲスト

2011年11月20日21時40分発行